

## 製品の製造プロセスそのものを見直し、省資源/省エネルギーをどこまでも追求する、IT業界初の取り組みをスタートしています。

資源やエネルギーが循環する持続可能な社会の形成へ向けて、「環境配慮型工場」を実現する。それが製造活動に対する富士通グループの考え方です。製造拠点のさらなる環境負荷低減をはかるための新たな取り組みとして、製造プロセスをライン単位で見直すことで、資源投入量、使用エネルギーをトータルに削減する「グリーンプロセス活動」を業界で初めてスタートしました。本活動は、まず半導体量産工場である三重工場からトライアル適用を開始し、早期にグループ全体への適用を進めます。

### グリーンプロセスのしくみ

#### グリーンプロセスとは？

製品の製造工程から、資源の投入、化学物質の使用、エネルギーの使用などの環境負荷をできる限り取り除く、継続的な取り組みです。

#### 活動内容

製造工程ごとに投入する材料、化学物質、エネルギーなどについての環境負荷評価基準を設定して、継続的に削減活動を行います。半導体の三重工場でのトライアルでは、評価基準をもとに環境負荷を項目ごとにすべて抽出し、低減活動を行いました。今後はこの活動実績をベースとして、グループの各製造拠点へと展開していきます。

#### 導入のメリット

工場におけるインプットからの環境負荷低減

製造活動の上流である材料、化学物質、エネルギーなどの投入を減らすことで、廃棄物削減、化学物質削減、省エネルギーを効率的に推進し、製造拠点におけるさらなる環境負荷低減を実現できます。

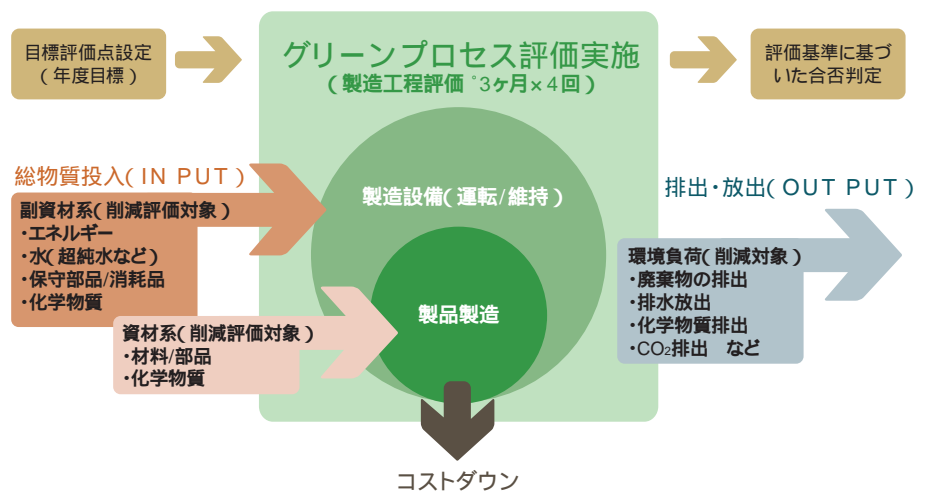
#### 製造活動のコスト低減

原材料、化学物質、エネルギーなどの総物質投入量を把握し、削減できるため、製造コストの削減など経営上のメリットも期待できます。

#### 製造工程への新たな評価指標

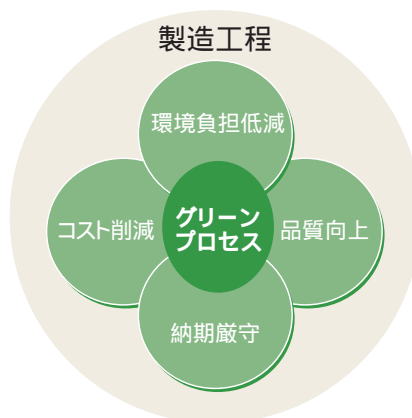
いままでの製造工程の主な評価項目であるコスト削減、品質向上、納期厳守に新たな評価項目である環境負荷低減を加えることで、新たな付加価値を生み出します。各工場は、各製造ラインにつき、四半期ご

三重工場の例



とに目標設定、達成度評価を行い、継続的に活動を推進してまいります。

製造工程への新たな評価指標



#### 三重工場でのトライアル結果

当社のグリーンプロセス活動においては、コストと環境負荷の両面から対策効果が大きい資材を抽出できる「コスト・グリーン (CG指標)」という独自の指標を開発しました。これは、薬品、ガスなどの資材ごとに、単価と単位製品あたりの使用量、内部で決めた環境影響度の3つの数値をかけ算で算出するもので、この数値をベースに削減活動を行います。その結果、半導体製品の製造ラインにおける2003年1月から3月までの実績は、グリーンプロセスの導入前に比べて、薬品、ガスの単位製品あたりの使用量が6.9%、金額にして16.5%削減できました。

#### 2003年度 主な実施計画

- ・化学プロセスで多くの薬剤を使用する半導体部門の工場から随時適用を開始し、2004年3月までに関係会社を含むすべての製造拠点に導入する予定です。